

ISSN 0910-2396

野鳥たより

—北海道—

第 89 号

編集・発行 北海道野鳥愛護会

発行年月日 平成 4 年 9 月 21 日



ルリビタキ

撮影者 野坂英三



もくじ

私の探鳥地（恵庭）	富田寿一	2
香港探鳥の記	矢野玲子	3
フィールド・マナー	柳沢信雄	5
鳥見人からの便り (3)	隅田重義	5
誌上写真展		6
探鳥会ほうこく		7
探鳥会案内		10
鳥民便り		10

私の探鳥地（恵庭）

富田寿一

鳥の知識については、まだ未熟な私ですがフィールドとしている恵庭市内の探鳥地について紹介します。

恵庭市街地に最も近い探鳥地が恵庭公園です。森林の鳥を主に一年中観察できます。春から夏にかけて公園内の歩道がそのまま探鳥コースとなり、鳥たちの美しい声に包まれての森林浴ともなります。秋は紅葉を觀賞しながら、冬は歩くスキーでの探鳥は気分がいいものです。

公園内は静かで、大きな樹木も豊富に残されていて探鳥に最適といえます。

次に恵庭市内を流れる千歳川とその支流の漁川と島松川をフィールドとしています。放水路問題の千歳川ですが、渡りの水鳥達が羽根を休める場所があります。舞鶴橋から広島町の近くにある北島にかけてが最も多く集まります。多い年は数万羽にもなり、2年前にはテレビでも紹介されました。珍客も時折り姿を見せ、昨年11月に私はタゲリを2度見ることができましたし、今年の冬はユキホウジロの群れも訪れてくれました。

次に島松川ですがカワセミの営巣地として知られています。去年はテレビ局も撮影に入りました。昨年まではヤマセミも営巣していましたが今年は姿を見せませんでした。

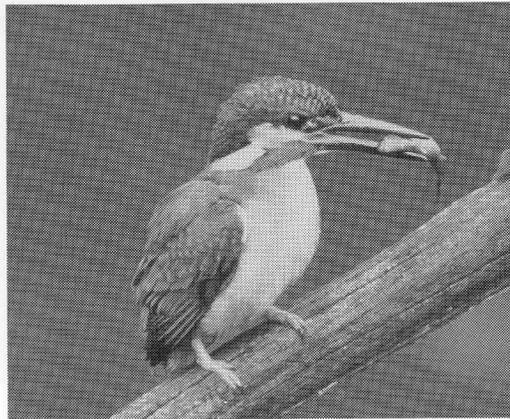
漁川の上流には、恵庭湖と名前がついたダムがあり、その近くに自然公園がありますが、野鳥の観察施設もあり探鳥に適した公園となっています。森林の鳥が結構楽しめます。この他、漁川の支流に茂漁川という川があって私の家から70mほどの所を流れています。この川は昨年「ふるさとの川公園」として、国の指定を受けその一

部の川幅を80mほどに広げ、子供達が水遊び出来るよう浅瀬にしました。子供達とともに水鳥達も来て欲しいと思っていますが、7月にチドリ群れを見かけましたので期待できます。しかし、川幅を広げた分だけ雑木林がなくなり、昨年まで営巣してヒナを誕生させてきたキジのファミリーとミソサザイの姿が途絶えました。

恵庭市内の私の探鳥地について簡単に紹介しましたが恵庭で最も印象深い鳥としてあげるとすれば、私はオオジギをあげます。5月の早朝まだ暗い内からデイスプレー飛翔の羽音で安眠妨害になる程です。市内の中学校の校章デザインにも使われています。

機会があったら恵庭の鳥達も訪ねてやって下さい。

〒061-14 恵庭市文京町116-21



カワセミ 4. 6. 20 富田

香港探鳥の記

矢野玲子

4月11日15時5分、香港カウタック空港着。千歳空港から僅か4時間半である。「好きなシギ、チをいっぱい見たい。」と4泊5日の香港探鳥ツアーに参加した私。香港の4月中頃は夏羽のシギ、チドリ類が万近く集まるといふ。それに日本では迷鳥といわれるアカガシラサギ、タカサゴモズ、ヤマショウビンなどが、ごく当り前にいるそうだ。これからどんな鳥を見ることができるのか幸運を願わずにはいられない。

入国手続後、バスで九龍地区のイートンホテルへ。香港は狭い所に高層ビルが建ち並び車や人の多いこと、さすが自由貿易の国際都市である。

日没までまだ間がありそうなのでホテル近くの九龍公園を探索することにする。長袖ブラウスに木綿のストラップで暑くも寒くもない。公園に近づくと街路樹の繁みからオオルリのような声が聞えてきた。広々とした園内には大きな池もあり全体が緑でおおわれ鳥の往来も多い。ただ土曜の夕方のでかいあちこちに熱々のアベックがいて目のやり場がなかった。

—探鳥地で—

◎九龍公園 4月12日・13日

早朝探鳥した所。朝食前に一回りする。ここは九龍繁華街にある唯一の緑のオアシス、日の出前なのにもうのんびりと散策する人、ゆるやかに大極拳を楽しむ人とかかなりの人出である。カノコバト、コウラウン、シキチョウ、カササギはどこにでもいる。池のそばの低木の中からシロハラクイナ、その上の枝にキマユムシクイがいた。芝生の近くの大木にオオバンケンが止まり「ウッ ウッ」と低い声で鳴いた。

◎香港動植物園 4月13日

ワカケホンセイインコが緑色の長い尾をなびかせて飛び回っている。中はよく整備され、木の多くは南方系のようなだ。オオルリチョウは崖の近くにキバタンは高い木のとっぺんにいた。ガビチョウ類は比較的の低木に多かった。観光客で溢れ、探鳥に不向きのように思えたが、結構鳥は多い。

◎タイポカウ（大埔滘自然護理区） 4月13・15日

ホテルから車で1時間、新界地区の山奥にある。13日はバスで行き、15日はホテルに頼んで5時にタクシーを呼んでもらう。両方共、運転手は行き先がわからず地図を見せたらわかった。タクシー代は片道、チップ込みで100HK\$（約1750円）。

初日は昼近い探鳥ではあったが、白やピンクの花にメ

ジロ・シジュウカラが群れ電線にシロガシラやカノコバトなどが次々と止まり、みんなを楽しませてくれた。ダム横の高台は四方がよく見渡せる所。ここからヒロサンショウクイ・コシジロキンパラを見た。

15日は夜明け前に到着。まだ薄暗い中、緩やかな坂を登った。日本では耳にしたことのないあでやかな鳴き声。その鳥が何であるかシルエットでは無理。ダム横に来た時、周りはいよいよすっかり明るくなった。ヒロサンショウクイの好きな木にベニサンショウクイも来た。顔の色が明らかに違う。遠くに真黒なクロヒヨドリを見つけ、その赤い嘴もしっかり見た。漁農処の事務所近くは、いろいろな花が咲き乱れ、私たちはここで小休止。10cmに満たぬ小さな鳥が赤い花の近くに現れた。エンビタイヨウチョウの雄だ！ホバリングしながら曲った長い嘴で蜜を吸うさまの可愛いこと。アカハラコノハドリ・オオゴシキドリの美しい鳥も見た。帰路にカンムリオウチュウも。長く垂れ下った尾のこの鳥はオウチュウよりもかなり大きく見えた。

◎マイポ（米埔自然護理区） 4月12～14日

新界地区の北西、中国国境沿いにある。380haの湿地には干潟 マングローブ林 養殖池が広がり素晴らしい探鳥地である。既に何度か香港を訪れている羽田さんから



タイポカウ入口で

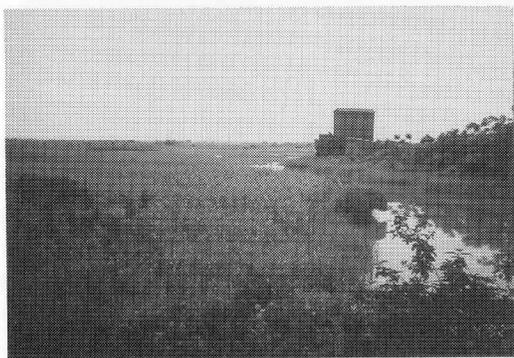
「香港はマイポ保護区内がメインだから丸一日はここに
いるつもりで。」と教えられ旅行会社にもそれは通じて
いる筈だったが…が、でき上った日程は、たったの3時間
であった。マイポの一般観光に組込まれてしまったのだ。
もう日程を変えることは無理ということで自由時間を保
護区の外探鳥に当てることになった。

12日。保護区の外側で探鳥。警察の監視所から右に入
ると高いフェンスに囲まれた一面のヨシ原であった。川
が蛇行しところどころが沼になっている。入口の電線に
タカサゴモズ。モズ独特のシッポの振りにカメラを向け
ても逃げようとはしない。道の脇のヨシにマミハウチワ
ドリ・アオハウチワドリがよく止まる。遠くの沼にはム
ラサキサギ・アオサギ・コサギ・ダイサギ、それにアカ
ガシラサギもいる。頭の上をウミネコ大のオニアジサン
がゆっくり飛ぶ。誰かがヤマショウビンを見つけた。赤
い太い嘴と黒の顔、青い羽が印象的だった。

14日。待ちに待った日。真っ赤なサルハマシギが何百
と群れて右に左と舞うのが見られるかも知れない。あこ
がれのAVOCE Tに会えるかも知れないのだ。だが、
保護区内探鳥は10時からなのに、長々と待たされて30分
後に出発。しかも歩くのが遅く案内人の説明の長いこと。
団体行動を無視して、先へと進む。木道を挟んで右がヨ
シ原、左が養殖池。右からヨシゴイ・リュウキュウヨシ
ゴイ・左にアカガシラサギ・カワセミというふうに面白
い位鳥がいる。観察小屋に入る。干潮で干潟は広い。ダ
イサギ・アオサギは方々にいるが、シギはポツン、ポツ
ン。後背地に行ってしまったのか？落ちてよく見ると
ツバメチドリ・コアオアシシギ、夏羽のサルハマシギと
シベリアオオハシシギが少数ながらいた。ダイサギの中
にクロトキも。黒い頭とわん曲した長い嘴のクロトキは
一際目立つ。結局、3時間の探鳥では保護区内の1/3を
歩いたに過ぎない。残念であった。

—おわりに—

コンダクター島田明英さんを入れて11名のツアー、ま
まとりやすく鳥好きの人達ばかりで楽しく探鳥ができた。



水鳥の探鳥 マイポ

香港は鳥の
密度が濃く、
数多くの鳥
との出会い
があった。
ここは個人
で安いフリー
のツアーを
利用すれば
自由な探鳥
旅行ができ
そう。物
価も安く治



マミハウチワドリ

安も探鳥地では問題はない。お薦めの地である。

最後に香港探鳥の資料を提供して下さい、いろいろ教
えて下さった羽田さん、予習のためビデオをお貸し下さ
った大野さん、ありがとうございました。心より感謝いた
します。

(見た鳥) カイツブリ、カワウ、ムラサキサギ、アオサ
ギ、ヨシゴイ、リュウキュウヨシゴイ、アカガシラサギ、
コサギ、アマサギ、ダイサギ、ゴイサギ、クロトキ、ヨ
シガモ、オカヨシガモ、カルガモ、ヒドリガモ、トビチュ
ウヒ、ミサゴ、シロハラクイナ、バン、オオバン、ムナ
グロ、ツバメチドリ、シベリアオオハシシギ、イソシギ、
キアシシギ、ツルシギ、アオアシシギ、コアオアシシギ、
サルハマシギ、ハマシギ、オニアジサシ、カノコバト、
ドバト、オニカッコウ、オオバンケン、バンケン、オオ
ゴシキドリ、キバタン、ワカケホンセイインコ、ヒメヤ
マセミ、カワセミ、ヤマショウビン、ハリオアマツバメ、
ヒメアマツバメ、ツバメ、タカサゴモズ、オウチュウ、
カンムリオウチュウ、カラムクドリ、クビウムクドリ、
ハツカチヨウ、タイワンオナガドリ、カササギクビワガ
ラス、ハシブトガラス、ヒイロサンショウクイ、ベニサ
ンショウクイ、アカハラコノハドリ、コウラウンシロガ
シラ、クロヒヨドリ、カオジロガビチョウ、カオグロガ
ビチョウ、タイカンチョウ、ホイビイ、オオヨシキリ、
アオハウチワドリ、マミハウチワドリ、オナガサイホウ
チョウ、キマコムシクイ、エゾムシクイ、メジロシキチ
ョウ、ノビタキ、オオルリチョウ、シジュウカラ、キセキ
レイ、エンビタイヨウチョウ、スズメ、コシジロキンバ
ラ (鳥名は世界鳥類和名辞典に準拠)

(註)

- ・図鑑BIRDS OF HONG KONGは日本野鳥の会で取扱い
- ・マイポ保護区立入許可証は氏名、パスポート番号などを書いて申請しなければならない。到着迄3週間くらい。

私たちの会が誕生して22年になります。設立当初から探鳥会と会報は活動の柱として大きな役割を担い今に続いています。

その間、会員数も多少の幅はありますが4百余名とほとんど変わっていません。

しかし、会員の入退により会員が固定しているわけではありませんし、入会する動機も多様化しております。

新・旧会員共について活動の流れに乗ったままで会の目的を忘れ勝ちになることも否定できません。

そこで、あえて当会の目的を取りあげ、探鳥のマナーについて会員の皆様にいま一度考えていただきたいと思えます。

会則の第3条に「本会は野鳥愛護活動の実践及び野鳥知識の普及を図るとともに野鳥保護の運動を通じて会員相互の親睦を図ることを目的とする」とあり、第4条でその目的を達成するための事業のひとつとして「探鳥会・講演会等野鳥愛護行事の実施」が記されております。

このことは探鳥を単なる自然趣味や道楽としてとらえ、野鳥の生活を脅かしたり貴重な生命をあやめ、自然のしくみの一部を損壊してこれを私物化してはならないことを、探鳥会を通して啓蒙普及しようということだと受けとめています。

探鳥会の自然への親しみ方は、その根底にまず自然へのモラルが確立され、科学的・合理性と共にきびしい節度と分別が各人の内に醸成されるよう行なわれなくてはならないと考えます。

最近、道内のある探鳥地へ行った時の事です。春、秋の渡り鳥飛来シーズンを迎えるとブームに浮かれ急増した野鳥観察者が私有地に何のこともなく侵入し、食べかすや空き缶を所かまわず投げ捨てる。田畑に入り

あぜ道をくずしたり作物をいためる。

せまい農道に車を止め農作業のじゃまをしても悪びれるところがない。働きに出ている農家の人たちと顔を合わせても、ことわりもしなければあいさつもしない。

そんな不法集団が年々ふくれあがり地域住民のがまんも限界にきていると聞かされた。

俺たちの静かな生活を取り戻すためには、有名になりすぎた鳥たちを追い払い、しめだして野鳥観察者を来なくするしかない合法的な鳥追い出し戦略を真剣に検討しているというのだ。

農家の人たちは田畑におりる鳥たちに怒っているのではなく、急増した野鳥観察者の常軌を逸した行動や公衆道徳をわきまえない傍者無人な態度ががまんならないといっているのです。

気がついてみたら鳥たちや自然の見方であるはずの私たちが寄ってたかって、地域の人々の生活を荒し心を傷つけ、鳥たちの楽園をメチャメチャに壊してしまったということになりかねません。

私たちのフィールド・マナーについて、いま皆で考える時が来ていると思います。

大変生意気な言い方になりましたが、探鳥会の参加者は個々に色々なねらいを持って参加しています。

せめて私たちの探鳥会では、リーダーまかせにすることなく参加した会員全員が、自然の中にあるがままの野鳥の姿を、これを害ねたり、驚かしたりすることなく観察したり、楽しんだりすることを通して野鳥やその生活の場を守り、地域の人々の生活やその自然に対する心ずかい、基本的なルールを培っていききたいと願うものがあります。

〒003 札幌市白石区栄通8丁目3-11

鳥見人からの便り (3)

思い出の人「野村さん」

隅 田 重 義

しばらくでした……お元気ですか。私も元気いっぱいです。いよいよ春ですね。いつかお会いできる日を楽しみにしています。

私も長い65年間のハンターを終り、鳥獣保護員29年の仕事を退きました。今は「日本鳥類保護連盟」の専門委員(昭和38年から)の仕事自由をゆっくりと……我が道を邁進しているといった此の頃です。

ちかごろ、昨年惜しまれつつ逝かれた野村梧郎さんの事が、いろいろと思い出されます。最後に戴いた野村さんからの便りを今も大事にしております。

野村さんとは、仕事上の他に狩猟仲間として長いお付き合いでした。野村さんと共に……狩猟に出かけ、とても楽しかった事を思い出しております。この写真は、若き日の野村さんと、函館から松山方面に向った好狩場からの

楽しい帰り道に撮影したものです。各地から同好の人々が集り、打合せして、日の出を待ったものでした。

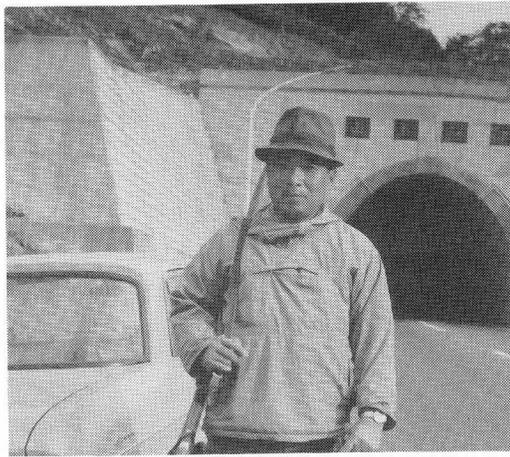
私の家に泊って、ゆっくり語り合ったことも今では懐かしい思い出です。

言葉すくない氏の人柄……。温厚で、しかも堅実な……今も尚、強く心うたれています。野鳥愛護会での活躍は、今更のべるまでもなく、大役を果されました。

氏の死去を惜むばかりではなく、その果した仕事の大きかった事を、しみじみと考えさせられます。

春になると、コクガンやクマガエラの子備調査をしたいと思っております。札幌に行きたいと思いつつ仲々できないしております。会員の皆様によろしく。どうぞお元気です……。(付記 今春いただいたもので遅くなり申し訳ありません…係)

(040) 函館市八幡町13-16



若き日の野村さん 46. 10

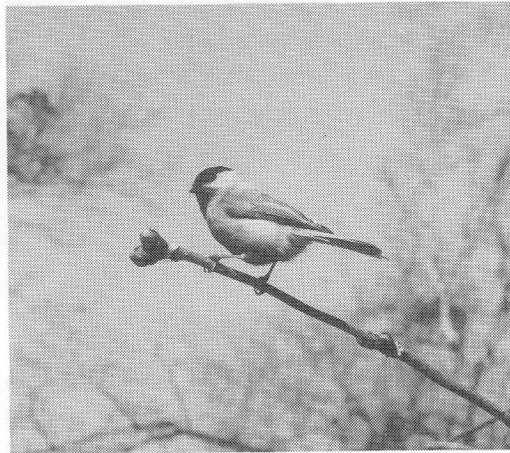
誌上写真展



キマユツメナガセキレイ 山田良造



コオリガモ 石橋孝継



ハシブトガラ 山本 一



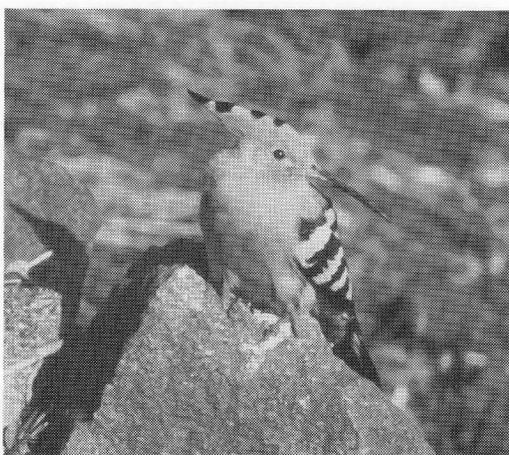
ハマシギ 佐藤幸典



ギンザンマシコ 佐藤 勇



ノビタキ 野坂英三



ヤツガシラ 遠藤 茂



鶴川で何をウォッチング？

92. 5. 17 夏井 眞砂子

とてもよいお天気の中、友だちに誘われて、2週続きでバードウォッチングに参加してしまいました。

あの早朝にふるえながら、なんでこんな思いをしなげらと先週千歳川で初めての探鳥体験をしました。終る頃にはテレビや本でしか見た事がないカワセミやオオルリ他数十種もの野鳥を皆さんに見せていただき、とても感動的でした。

夢中になる皆さんの気持ちが少しわかったような気がしてまた参加してしまったのです。

野鳥の事はほとんどわからない私ですが、友だちの双眼鏡をのぞかせてもらい、「プロミナに入っていますよ……」と声のする方にいちやく飛んで行き、皆さんの親切にあまえ乍らのあつという間の3時間でした。

それにしても驚きでした。肉眼であんな遠くの鳥を見わけられるなんて。とび方が、頭の色が、胸の色が、くちばしが…。皆さんの鳥の話をされている時の生き生きとした童心にかえったような表情を、私はそっとウォッ

チングしてしまいました。雄大にとびまわるアオサギ・京の女と書いてキョウジョシギ、チュウシャクシギの仲間には、ダイシャクシギやコシャクもいるとか。カモメもカラスも1種類だけではなかったのですね。

私にもいつか、皆さんに見せていただくのではなく、自分で見つけられる時がくるのでしょうか。

〒063 札幌市西区琴似1条1丁目3-12 406

〔記録された鳥〕アオサギ、トビ、ヒドリガモ、コガモ、カルガモ、ムナグロ、ダイゼン、コチドリ、シロチドリ、メダイチドリ、オオソリハシシギ、チュウシャクシギ、ハウロクシギ、ツルシギ、タカブシギ、イソシギ、キアシシギ、キョウジョシギ、アカエリヒレアシシギ、オオヅシギ、タンシギ、トウネン、ハマシギ、ウミネコ、カモメ、シロカモメ、ユリカモメ、キジバト、ヒバリ、ショウドウツバメ、ツバメ、ハクセキレイ、ノビタキ、オオジュリン、カワラヒワ、スズメ、コムドリ、ムクドリ、ハシボソガラス、シマアジ、オオハム 以上41種

〔参加者〕石谷義一、泉勝統、上野治孝、小堀煌治、小林敬一、鈴木良三・あや子、久田伸一・通江、渋谷信六・弘子、志田博明、佐々木武巳、笹岡留美子、佐野由美子、佐藤勇、田中憲一、戸津高保、竹内強、田中志司子、道場優、永島トキ江・麻子、夏井真砂子、野坂英三、服部光博、羽田恭子、浜田強、広川淳子、藤谷昭典・雅貴、牧野ようこ、三船喜克・幸子、吉田司・行子、山本恵理、矢野昭二・玲子、吉田忠勝、山田良造、鷺田善幸 以上21名

〔担当幹事〕山田良造、野坂英三

探鳥会に参加して（植苗）

92. 6. 7 高原 初江

は、このたびはじめてパードウォッチングに参加させていただきました。子供3人、大人2人の参加です。植苗は、どんよりとくもり肌寒い、風の吹く半日でした。

しかし、森をぬけ、草原の中を歩いていくと、しだいに鳥の声が聞こえはじめました。ほとんど、どこで鳴いているかわかりません。何回も参加している方は、すぐわかり、簡単に見つげだすのです。木の葉が繁っている今ごろは、みつげだすのがとてもむずかしかったです。カワラヒラ、ハイタカ、カッコウ、オオルリ、キビタキすべて、はじめてみる鳥、そしてなき声です。鳴き声はきれいで、私はずいぶん、ひきこまれていきました。すすきの上ののっているコヨシキリ、とてもかわいらしい姿をみせてもらいました。

今まで鳥はあまり好きではなかったのですが、自然の中でいっしょうけんめい生きている野鳥の、リンとした姿をみるのができ、とてもすばらしい時間をすごしまし

た。機会があれば、このパード・サンクチュアリのウトナイ湖にまたきてみたいと思います。

005 南区真駒内泉町4の3 1-305

〔記録された鳥〕アオサギ、トビ、ハイタカ、コブハクチョウ、マガモ、カルガモ、オオヅシギ、キジバト、カッコウ、ツツドリ、ヒヨドリ、ノゴマ、ノビタキ、アカハラ、マキノセンニュウ、コヨシキリ、センダイムシクイ、キビタキ、オオルリ、シジュウカラ、ホオジロ、ホオアカ、シマアオジ、アオジ、オオジュリン、カワラヒワ、ベニマシコ、スズメ、ハシボソガラス、ダイサギ 以上30種

〔参加者〕藤谷昭典・雅貴、武部ゆう子、鈴木和子、今野弘、伊藤秀平、西川喜久世、高原はつえ・昭太、大西典子、永島良郎、羽田恭子、浜田強、鎌田玲子、戸津高保・以知子、武沢和義・佐知子、富田寿一、野坂英三、小川秀子、斉藤まきこ、鎌田博、浜中恒寧、豊口肇・美代子、松本輝雄・定子、池田巧、竹内強、清水朋子、山本潤、柳沢信雄・千代子、富川徹、伊藤貴子、遠藤茂・幸子、谷口栄・峯子、難波茂雄、渋谷信六・弘子、井上公雄、香川稔、小堀煌治、榊川保・弘子、田中志司子、野口正男・キヨ、山田良造、広川淳子、石橋、渋谷、三船喜克・幸子、久田伸一・通江、温井(2名)、池田容子、八嶋真智子、山田としえ 計64名

〔担当幹事〕永島良郎、富田寿一

東米里探鳥会に参加して

92. 6. 14 高木 弥生

パードウォッチングの世界に魅了され、夢中になって鳥を見るようになって約半年。6ヶ月の期限付きの転勤で憧れの北海道へ名古屋からはるばるやって来ました。名古屋の鳥仲間達の羨望と「北海道まで行って何も見てこれなかったらどうしてやろうか。」などと言われ、そのプレッシャーを背に、また未来のパートナーから借りたフィールドスコープを肩に東米里の探鳥会に参加しました。

初めての北海道の鳥達には本当に感動の連続です。マガモの繁殖に驚き、中部地方では高原で見られるノビタキが平地の草原で気軽に見られうらやましく思い、自分の頭の中では留鳥であるはずのホオジロが夏鳥と聞き、頭の中とのギャップに苦しみ……。自分の今まで見ていた世界のせまさと自然の大きさをあらためて思い知らされた1日となりました。

6ヶ月という限られた時間ではありますが、この北海道の大自然の中で、1種でも1羽でも多くの鳥達と出会うことができれば、またこれを機会に北海道での鳥仲間が一人でもできればと思っています。

末筆ではありますが、探鳥会での親切な御指導ありがとうございました。またぜひ参加させていただきたいと思ひます。

〒003 札幌市白石区東札幌4条6丁目
-15B S Kビル 406号

〒463 名古屋市守山庄白山2丁目311-1

東米里 平成4年6月14日 曇り 8:30~11:00

〔記録された鳥〕アオサギ、トビ、チゴハヤブサ、マガモ、カルガモ、ウズラ、コウライキジ、オオジシギ、キジバト、カッコウ、アリスイ、ヒバリ、ハクセキレイ、ヒヨドリ、アカモズ、モズ、ノビタキ、マキノセンニュウ、コヨシキリ、オオヨシキリ、ヤマガラ、ホオアカ、シマアオジ、アオジ、オオジュリン、カワラヒワ、ズメ、コムクドリ、ムクドリ、ハシブトガラス、ドバト 31種

〔参加者〕川守田順吉、佐々木友子、野口正男・キヨ、戸津高保・以知子、吉田司・行子、網島詔雄・征子、浜田強、松本輝雄・定子、野坂英三、清水朋子、千葉広、渡辺、広川淳子、白鳥満・睦子、井上公雄、三船喜克・幸子、泉 勝統、伊藤秀平・貴子、堂向隆・洋美、服部光博、久田伸一、高木弥生、大平則雄、梶山由美子、勝見由美子、新城久・晃子・遙、渡辺 以上38名
〔担当幹事〕井上公雄、千葉 広

平和の滝・夜の探鳥会に参加して

92. 6. 20 後 藤 洋 子

“トラッグミヤヨタカの声を聞けるかも”のウォッチングガイドを目にし“どんな声なんだろう?”と興味を抱き、初めて参加させていただきました。不安な気持ちで駐車場に着いた私に「探鳥会ですか?」のやさしい声ホットいたしました。会員のみなさんから虫よけスプレーをお借りし、いよいよ出発です。

“ピーツ、ピョーピーツ、ピョー”と澄んだ美しい声すぐ目の前の木の枝に頭が青色、腹が赤褐色の鳥が……。 「ワァーきれい!」とみんなの歓声。「ヒヨドリですネ」と指導員さん声、いよいよ満天の星空の下での「鳴き声ウォッチング」の始まりです。“ボンボンボン”とよく響く声、「ツツドリですヨ」「ブッポウソウ」と不気味な声、「コノハズクですヨ」「シーシーシー」と虫のような声、「ヤブサメです」新米パードウォッチャーの私は、暗闇に目と耳を澄まして真剣です。星空を気持ちよさそうにハリオアマツバメが飛びかっています。遠くから“キョッキョッ、キョッキョッ”と特徴のある声、これが“ヨタカ”の鳴き声だったのです。

残念なことに、これらの鳥に出会うことは出来ませんでした。夜の探鳥の楽しさを十分味わうことができまし

た。また会員のみなさまの心温い触れ合いに出会い、ぜひまたみなさまとご一緒させて頂きたいと思ひます。

〒061-32 石狩郡石狩町花川北3条3丁目

14番地05-2

平和の滝 平成4年6月20日 薄曇 18:30~20:00

〔記録された鳥〕ヤマシギ、アオバト、ジュウイチ、ツツドリ、コノハズク、ヨタカ、ハリオアマツバメ、ヒヨドリ、マミジロ、ヤブサメ、キビタキ、シジュウカラ、アオジ 13種

〔参加者〕大沼裕・孝子、後藤洋子、佐々木綾子、砂川成輝、佐藤勇、竹内峯子、武沢和義・佐知子、野坂英三、道場優、服部光博、元谷千鶴子、吉田司・行子、矢野玲子 以上16名

〔担当幹事〕武沢和義、矢野玲子

福移探鳥会—福移—

92. 7. 5 服 部 光 博

六、七年前より自転車、土、日は時に応じ石狩海岸、野幌森林公園、支笏湖と自然に接し、花、樹、鳥と見ていましたが、昨年六月より双眼鏡を持ち歩く様になり、この会にも今年は鶴川、東米里、平和の滝と今回で四回目参加です。

集合場所での幹事の紹介の後、鳥を求めて石狩川の方へ歩き始めて直ぐ右手の電線にモズの親鳥が子に餌を与えていました。中沼墓地の墓石の上でオオジュリンとホオアカ、前にあるカマボコ型の青いトタン屋根の納屋の上にハクセキレイ、古い電柱、低い木の杭と場所を変えながら、雄のノゴマが抑揚のある澄んだ声で早口に囀っています。頭部と体の上面は灰褐色、眼先は黒眉斑と幅広い頸線が白、喉には楔形の大きな鮮やかな赤の斑あり。四十人程の人垣の中で少しも警戒する事なく赤い喉を膨らませながら、青い空をバックにチュリチュリキョロキョロと囀る姿は、目の丸鳥の名の通りすばらしく、思わず“千両役者”と声を掛けたい心境でした。

いつまで見ても飽きないのですが、ノゴマだけが鳥でないと他の鳥に怒られそう。土手を下り、石狩川と豊平川の合流地点へ。その間、ヒバリ、カッコウ、ショウドウツバメが飛んでいます。灌木の茂みの中で、チンチンチュベチュベチューとベニマシコの声が聞えました。

対岸で、チュウヒ、オオヨシキリ、イソシギが見、シマアオジは声だけでした。

川に沿って歩き、それから道路に戻り、最終地点の中沼青少年キャンプ場までに、マキノセンニュウ、シマセンニュウ、ウズラ（これらは声だけ）カワラヒワ、アカモズ、シメ、キジバト、ムクドリ、コムクドリ等沢山の鳥を見る事が出来ました。

青空の下で、鳥と草原、石狩川の川風それに鳥仲間の楽しい一日でした。

〒001 札幌市北区麻生町3丁目2-3

福移 平成4年7月5日 晴れ 8:40~11:15

〔記録された鳥〕アオサギ、トビ、チュウヒ、マガモ、カルガモ、イソシギ、キジバト、カッコウ、カワセミ、アカゲラ、ヒバリ、ショウドウツバメ、ハクセキレイ、アカモズ、モズ、ノゴマ、ノビタキ、エゾセンニュウ、シマセンニュウ、マキノセンニュウ、コヨシキリ、オオヨシキリ、ホオアカ、シマアオジ、アオジ、オオジュリン、カワラヒワ、ベニマシコ、シメ、ズズメ、コムクド

リ、ムクドリ、ハシボソガラス 以上33種

〔参加者〕三船喜克・幸子、広川淳子、渡辺紀夫、石橋和子、五十嵐優幸、柳沢信雄・千代子、香川 稔、服部光博、高橋洋、久田伸一・通江、竹内強、越村善孝・栄子、永島良郎・トキ江、平井正人、鎌田 博、戸津高保・以知子、清水朋子、吉田司・行子、武沢和義・佐知子、井上公雄、高木弥生、藤原浩一・はるみ、古川一幸・さとみ、泉勝統、太田守・理恵子、浜中恒寧、栗林宏三、野坂英三、高柳国雄、星晴彦、小堀煌治、新城久、浜田強 以上44名

〔担当幹事〕戸津高保、泉勝統



〔ウトナイ湖〕

平成4年11月8日(日)

渡り途中のマガン、ヒシクイやカモ類を観察します。オジロワシやオオワシも見られます。今年はどうな珍鳥が現れるでしょ

うか。一部長ぐつの必要な所があります。

集合=9:40 ウトナイレイクホテル湖畔側

交通=道南バス(苫小牧行)、新千歳空港発9:20、ウトナイレイクランド前下車

〔小樽港〕平成4年12月13日(日)

ウミアイサ、シノリガモ、コオリガモ等の海鳥を見る数少ない機会です。ハヤブサの狩りも観られるかも。小樽駅からはバスで移動の予定です。

集合=10:00 JR小樽駅待合室

参加費=800円(予定)……バス代

〔藤の沢〕平成5年1月17日(日)

小鳥の村の村長、小沢さんのお話を聞き、エサ台に来

るカケス、カラ類、アカゲラ等を真近に見ながらクイズ等を楽しみます。持寄りの酒やつまみ、白鳥園のぶた汁を食べ、みなさんと親睦を深めましょう。

集合=10:00 白鳥園(南区藤野693-1)

交通=定鉄バス、地下鉄真駒内駅発、藤の沢下車、徒歩20分

参加費=500円(予定)

〔野幌森林公園を歩きましょう〕

平成4年11月1日(日)

平成4年12月6日(日)

集合=9:00 大沢口駐車場入口

交通=夕鉄バス(文京台線)、新さっぽろ駅発8:23、大沢公園入口下車、徒歩5分

○いずれの探鳥会も余程の悪天候でない限り行います。

○昼食、雨具、観察用具、筆記用具をご持参下さい。

○交通機関は変更等がありますので、利用される方は、各自で再調査をお願い致します。

○探鳥会の問合せは、011-831-8636 戸津宅まで。



エゾライチョウの観察記録をお送り下さい

現在、エゾライチョウの分布・生態について調べていますが、ほかの小鳥類とちがって、観察例が少ないため、なかなか資料が集まりません。エゾライチョウを観察された方は、記録をお送り下さい。

記録は;

1. 場所(地名)
2. 年月日(年月だけでもよい)
3. 羽数
4. 環境(常緑針葉樹林、落葉広葉樹林、針広混交林、

カラマツ林など)

5. 性別、成鳥か幼鳥かの区別

6. その他気のついたこと(樹上で餌をとっていたなど)。

上の項目全部がわかっていなくても、わかる範囲で結構です。またどんな古い記録でもかまいません。記録を送っていただいた方には、エゾライチョウのシールを進呈します。

送り先:080 帯広市稲田町 帯広畜産大学 野生動物管理学研究室 藤巻裕蔵

※付記……1)直接上記送り先に封書にて送付ください。

2)不明の点がありましたら、広報の泉(TEL771-3507)にご一報ください。

〔北海道野鳥愛護会〕年会費 1,500円(会計年度4月より) 郵便振替 小樽 1-18289

☎060 札幌市中央区北3条西11丁目 加森ビル5・6階 北海道自然保護協会気付 ☎(011) 251-5465